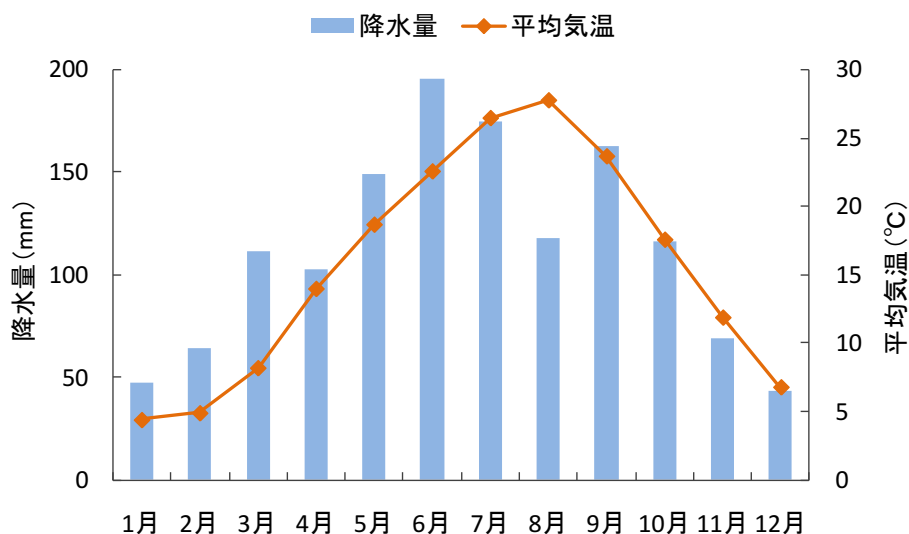


枚方市の地域特性について

1 自然特性

(1) 気候

本市の気候は瀬戸内気候区に属し、日照も多く比較的温暖で穏やかな気候を示しています。1981（昭和 56）年から 2010（平成 22）年までの 30 年間の平均気温は、1 月の 4.4℃が最低で、8 月の 27.8℃が最高となっています。また、降水量は、12 月の 43mm が最も少なく、6 月の 195.5mm が最も多くなっています。

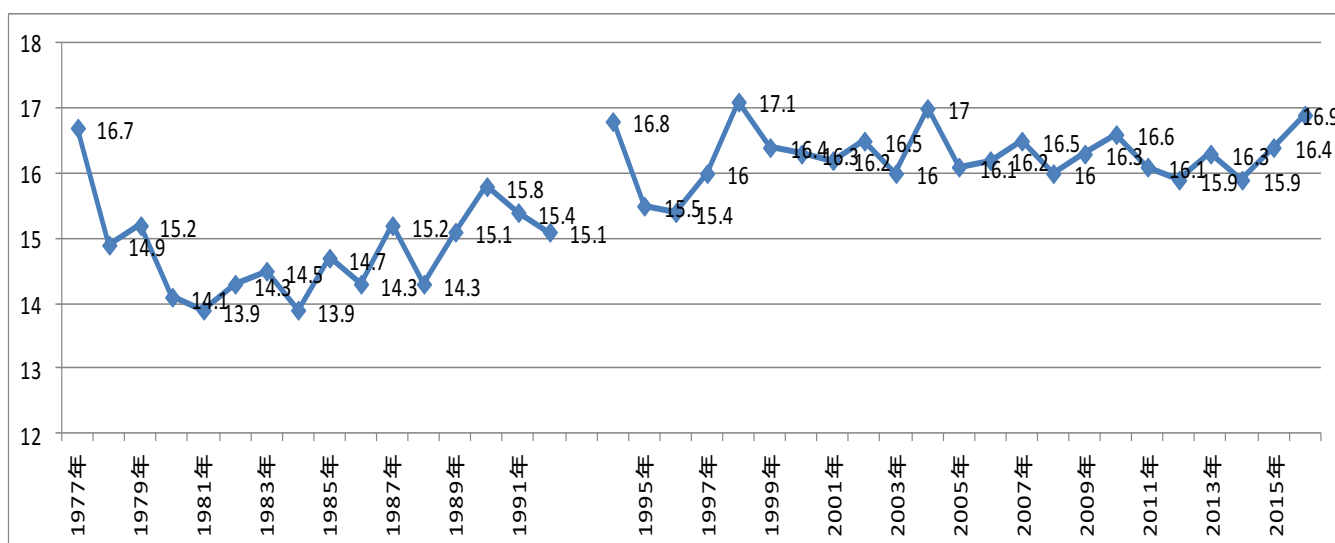


出典：気象庁

図 1 平均気温と降水量 (枚方観測所における 1981~2010 年の平年値)

(2) 気候変動の影響

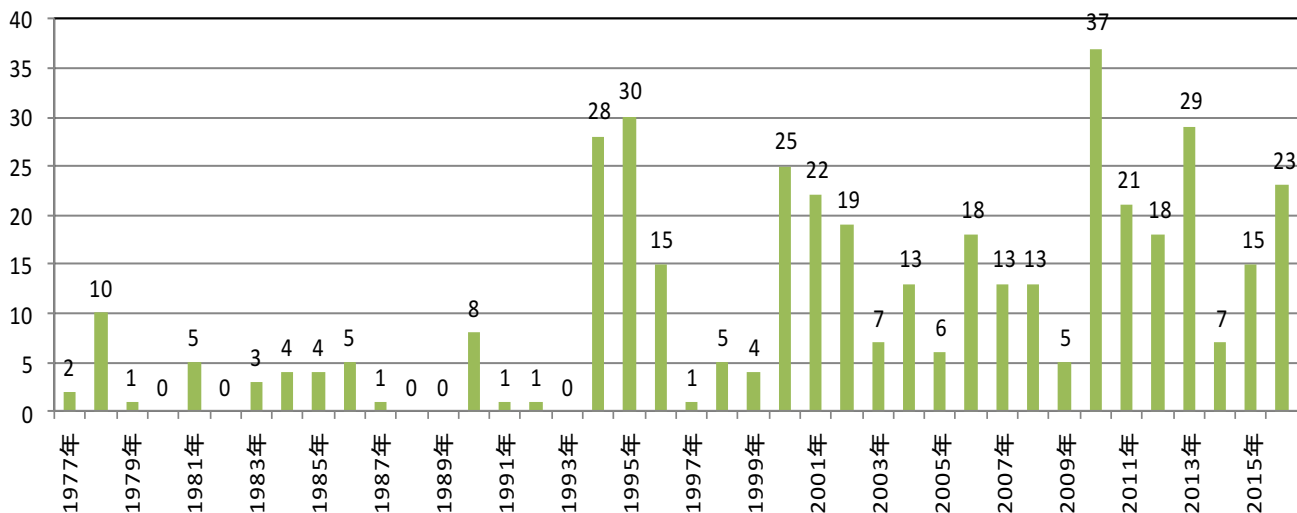
市内の平均気温は上昇傾向にあり、猛暑日（日最高気温が 35℃以上の日）の日数も、1990 年代以降増加傾向にあります。



※1993 年は測定地点移設のため欠測

図 2 平均気温の推移

出典：気象庁



出典：気象庁

図3 猛暑日（日最高気温が35℃以上の日）の推移

また、近年、局地的な大雨が頻発しており、2012年8月14日には、1時間最大雨量91ミリを観測し、床上・床下浸水が多数発生しました。

表 過去上位1位～10位までの雨量の観測記録（枚方観測所）

| 年月日 | 1時間最大雨量 |
|------------|---------|
| 2012年8月14日 | 91mm |
| 2008年8月6日 | 71.5 mm |
| 1979年9月30日 | 68 mm |
| 1995年8月30日 | 63 mm |
| 2013年9月16日 | 58.5 mm |
| 1982年8月9日 | 54 mm |
| 1988年9月11日 | 51 mm |
| 2013年8月23日 | 50.5 mm |
| 2013年9月15日 | 50 mm |
| 2003年5月8日 | 49 mm |

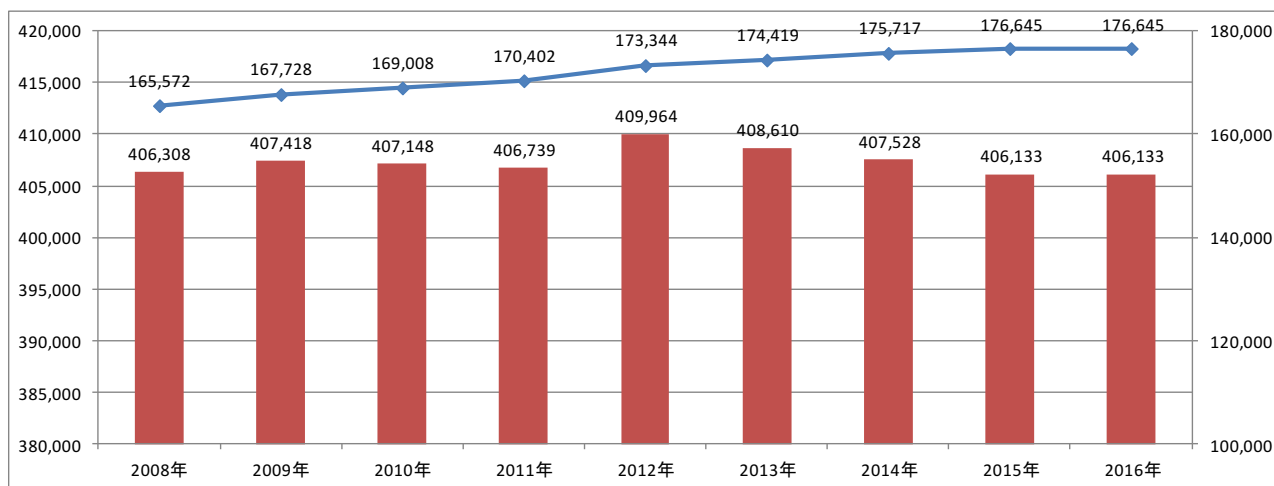
| 年月日 | 10分間最大雨量 |
|------------|----------|
| 2012年8月14日 | 23 mm |
| 2013年9月3日 | 19.5 mm |
| 2017年9月12日 | 17.5 mm |
| 2016年6月23日 | 17.5 mm |
| 2012年9月3日 | 17.5 mm |
| 2012年8月23日 | 17.5 mm |
| 2013年7月14日 | 17 mm |
| 2017年8月6日 | 16.5 mm |
| 2013年8月23日 | 16.5 mm |
| 2010年9月23日 | 15 mm |

出典：気象庁

2 社会経済特性

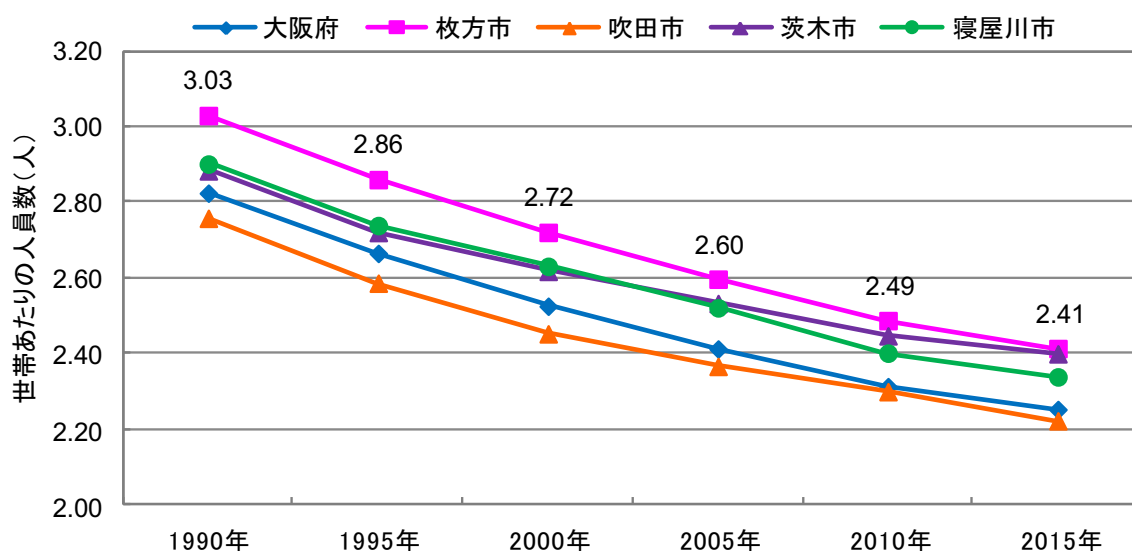
(1) 人口と世帯数

本市の人口は 2016（平成 28）年現在において 406,133 人、世帯数は 176,645 世帯です。人口は 2012（平成 24）年度の 409,964 人をピークとして、緩やかな減少傾向に転じています。一方、世帯数は増加を続けており、2016（平成 28）年は、176,645 世帯となっています。また、1 世帯あたりの人員数は、1990（平成 2）年に 3.03 人だったものが、2015（平成 27）年には 2.41 人と減少しています。



出典：枚方市統計書

図 4 人口の推移



出典：国勢調査、枚方市統計書

図 5 世帯あたりの人員数の推移

年齢 3 区分別人口の推移を見ると年少人口（0～14 歳）と生産年齢人口（15～64 歳）の減少が続いており、これに伴い老年人口（65 歳以上）が増加する少子高齢化が進行しています。

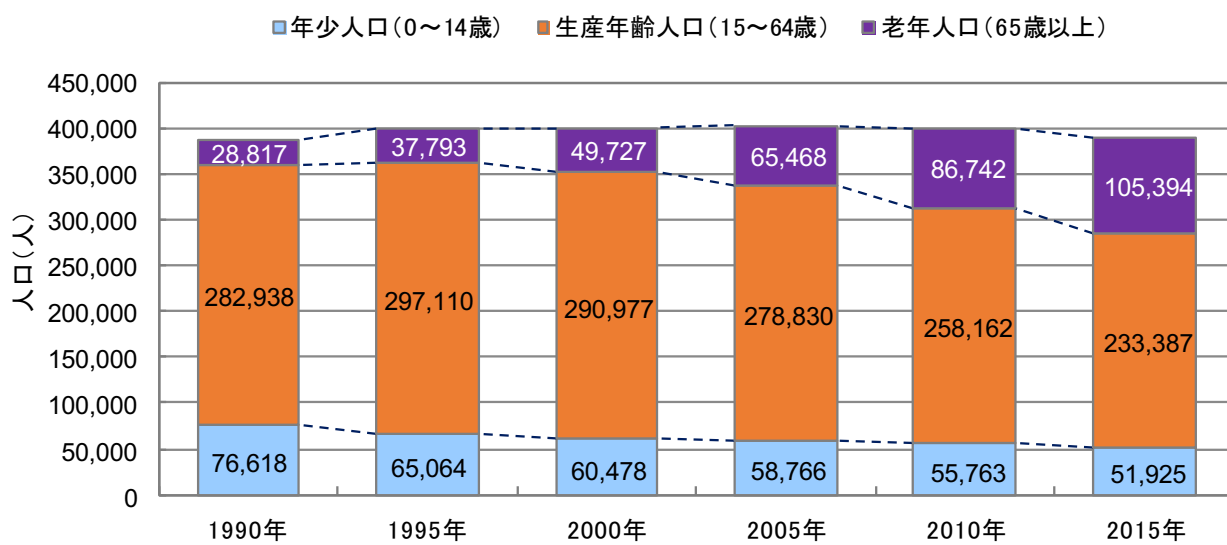


図 6 年齢 3 区分別人口の推移

出典：枚方市統計書

(2) 産業等

① 事業所数と従業者数の推移

本市の事業所数と従業者数の推移をみると、従業者数は年により増減はあるものの増加傾向にあります。第 3 次産業は小売業の占める割合が最も多く、従業者数は概ね増加傾向を示していますが、第 1 次産業、第 2 次産業とも減少しています。

一方、事業所数は 2014（平成 26）年において、10,737 事業所あるものの、すべての産業において減少傾向にあります。また、産業分類別に推移をみると、卸売・小売業や飲食店等が著しく減少している状況にあります。

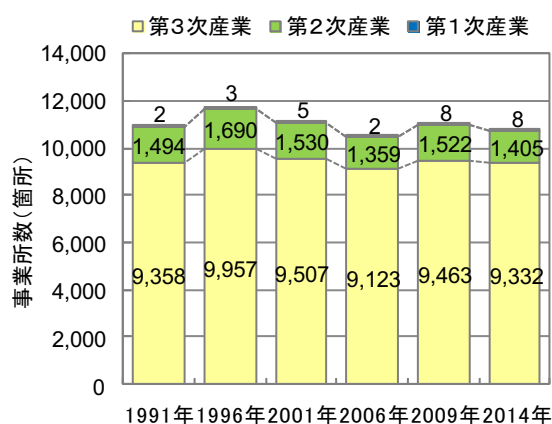


図 7 事業所数の推移

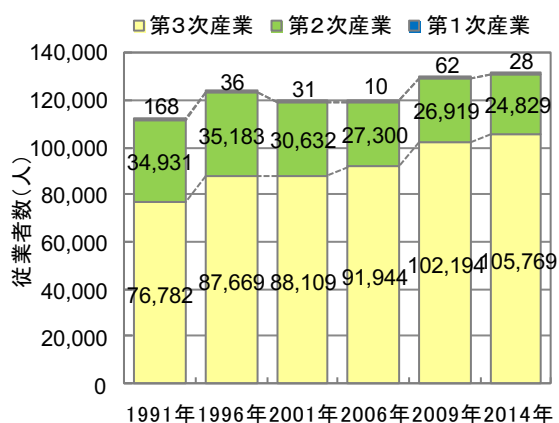


図 8 従業者数の推移

出典：枚方市統計書

② 製造品出荷額の推移

近年の製造品出荷額については、製造業等の事業者が減少傾向にあるものの、2007（平成 19）年まで増加傾向にありましたが、この年を境に 2008（平成 20）年と 2009（平成 21）年は減少し、2010（平成 22）年から増加に転じ、2014（平成 26）年は 7,366 億円となっています。

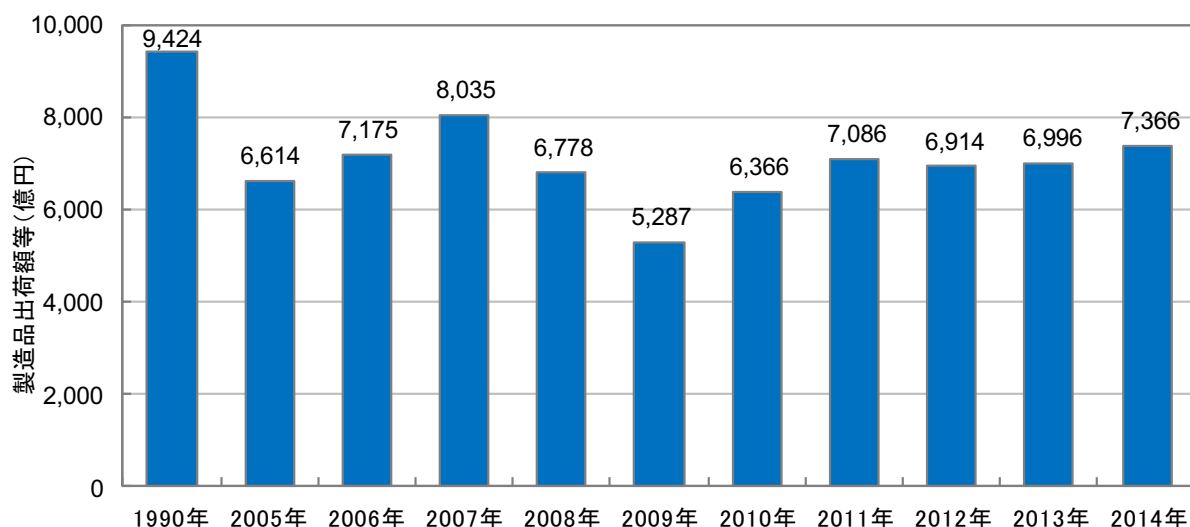


図 9 製造品出荷額の推移

出典：枚方市統計書

(3) 交通

① 公共交通機関

市域を通る鉄道は西端を淀川に沿うように京阪本線、これに並行して東部に JR 学研都市線があります。また、これらの 2 線を結ぶように京阪交野線が天野川に沿って通っています。京阪本線の 7 駅は、2015（平成 27）年における市域の乗降客数の約 8 割を占めています。

路線バスは市域の東西方向の公共交通網を補完しています。主要なバス停のうち、2015（平成 27）年において乗降客数が最も多い枚方市駅（年間 14,805 千人）は、隣接市の高槻市や茨木市からの路線もあり、市域の中心的ターミナルとなっています。次いで乗降客の多い樟葉駅（年間 6,856 千人）は、駅周辺を含め、事業所が集積した枚方企業団地・家具団地や、多くの住宅がある八幡市の男山団地周辺を結ぶ路線を持っています。

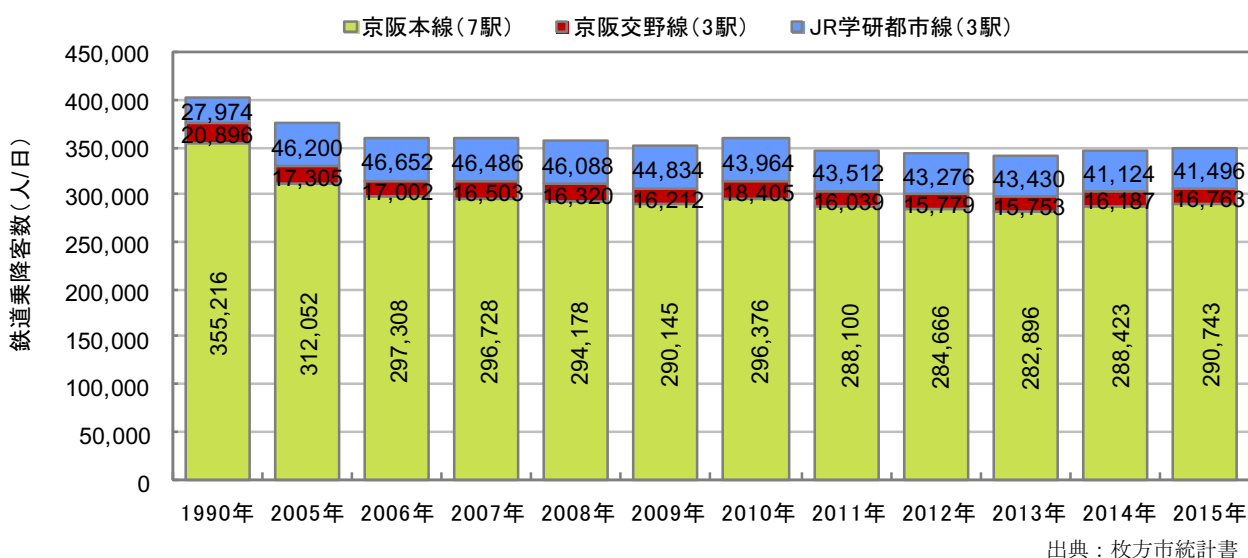


図 10 1日あたりの鉄道乗降客数の推移

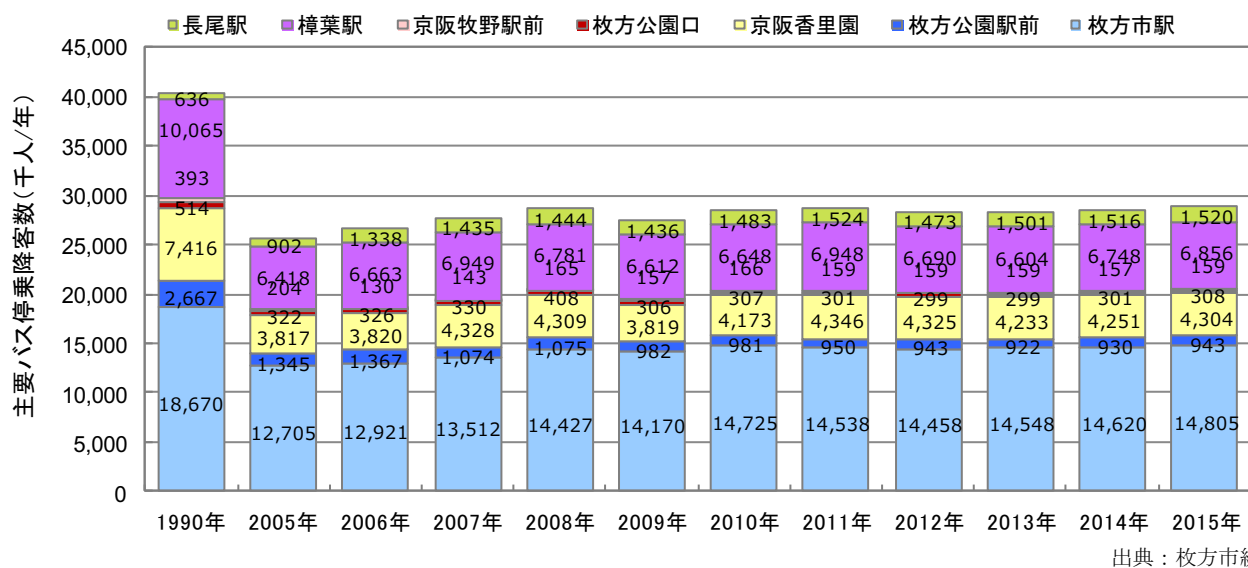


図 11 主要バス停における年間乗降客数の推移

② 自動車登録台数の状況

市域における自動車登録台数のうち、1990（平成 2）年度と 2015（平成 27）年度を比較すると、乗用車と軽自動車台数の増加が大きく、約 32,000 台増加しています。一方、2005（平成 17）年度以降の自動車登録台数の総数を見ると微減傾向にありますが、軽自動車の登録台数が増加する傾向にあり、乗用車の登録台数は減少しています。

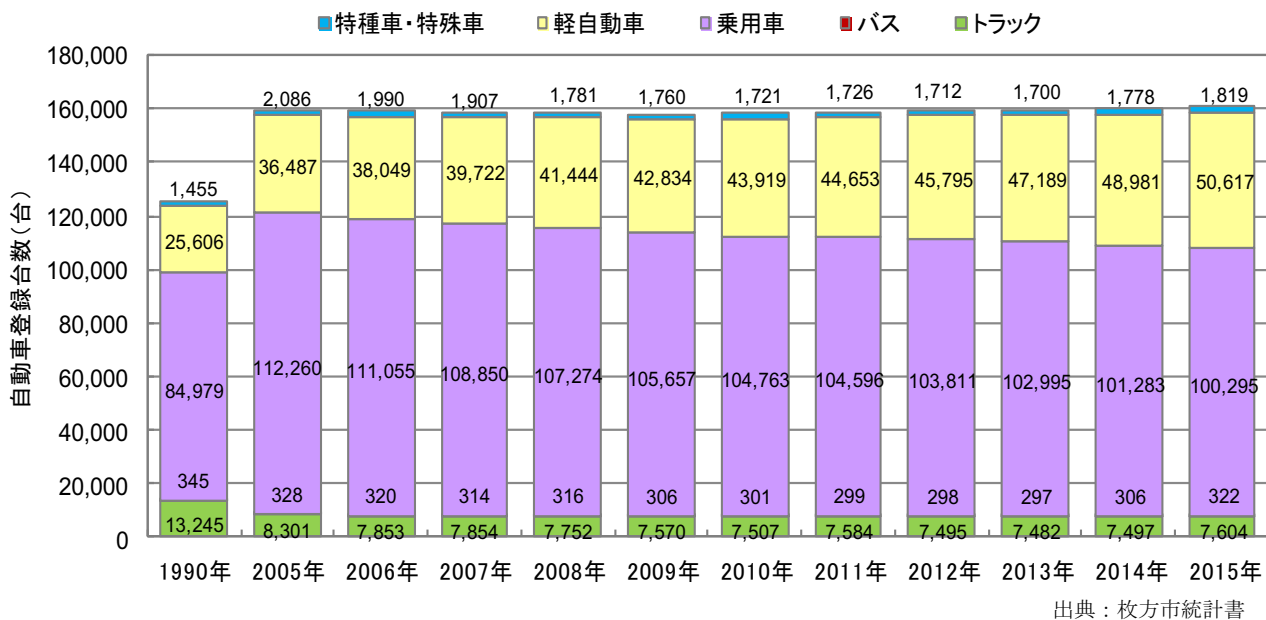


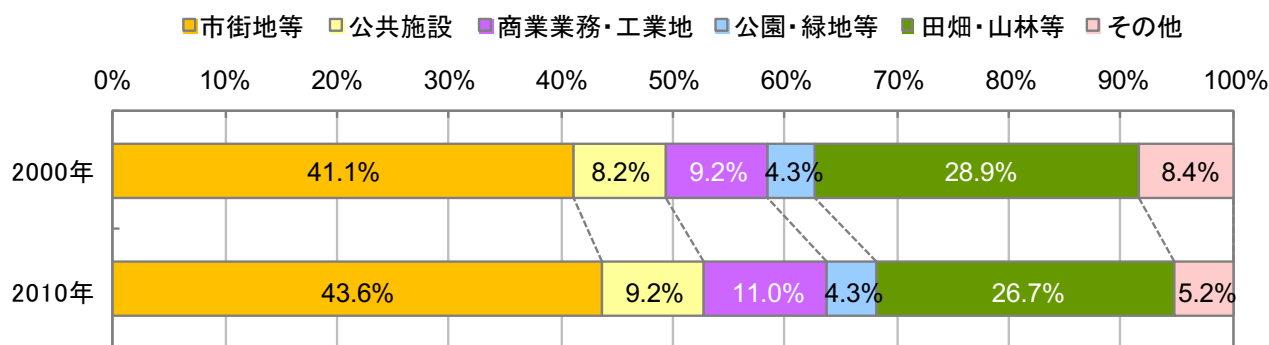
図 12 自動車登録台数の推移

(4) 土地利用動向

① 土地利用の現況

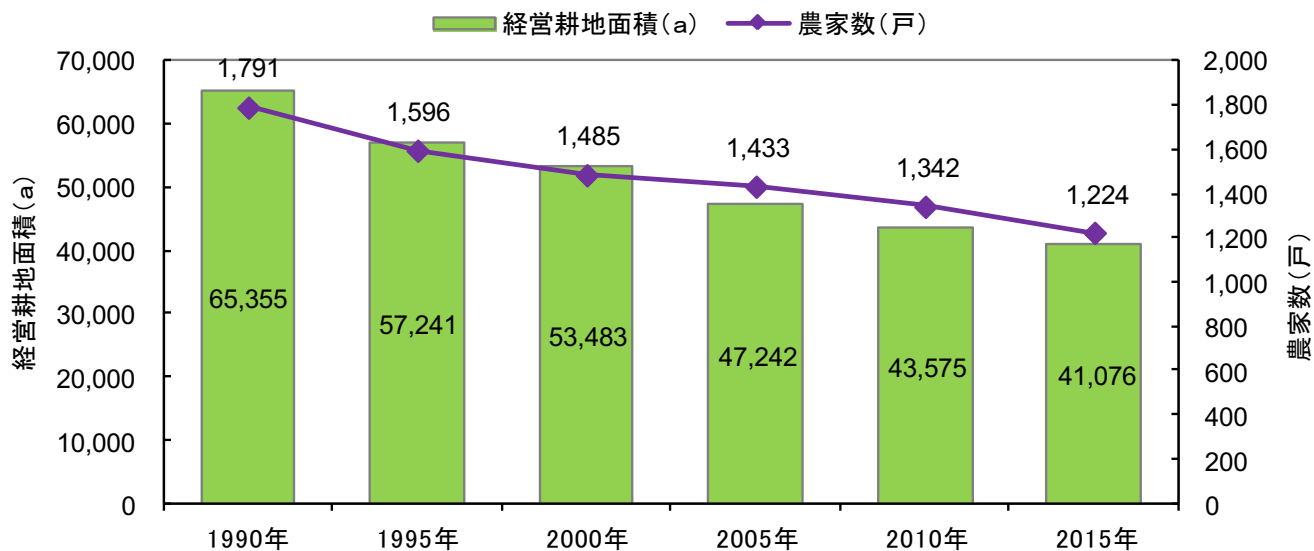
2010（平成 22）年の住宅地を含む市街地等は 43.6%を占めており、2000（平成 12）年から 10 年間で 2.5%増加しています。一方、田畑・山林等については、2.2%減少しています。また、土地利用のうち、田畑に相当する経営耕地面積の推移をみると、2015（平成 27）年の耕地面積は 1990（平成 2）年と比較して約 37%減少し、農家数も 567 戸減少しています。

市域の市街地等は市の中央部から以西に多く分布しています。商業業務の土地利用は駅周辺を中心に分布し、工業地の土地利用は幹線道路等に隣接して分布しています。



出典：都市計画基礎調査

図 13 土地利用の推移

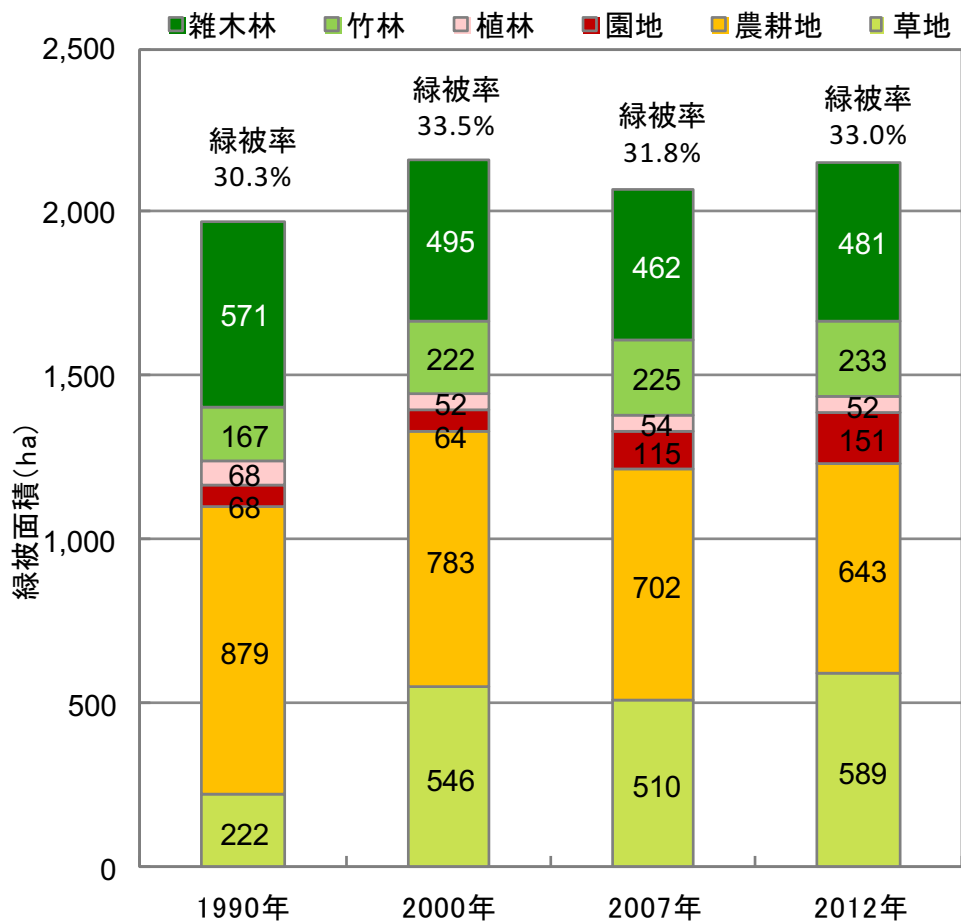


出典：枚方市統計書

図 14 耕地面積等の推移

② 緑被率の変化

2012（平成 24）年の市域における緑被面積は、2000（平成 12）年から約 12.7ha 減少しました。これは、市街地等の拡大により雑木林や農耕地が減少したため、緑被面積も減少したものと推測されます。また、緑被面積のうち、竹林面積は増加傾向にあり、近年の山林等管理の粗放化等により竹林面積の拡大につながっていると考えられます。



出典：枚方市ふるさといきもの調査

図 15 緑被面積の推移